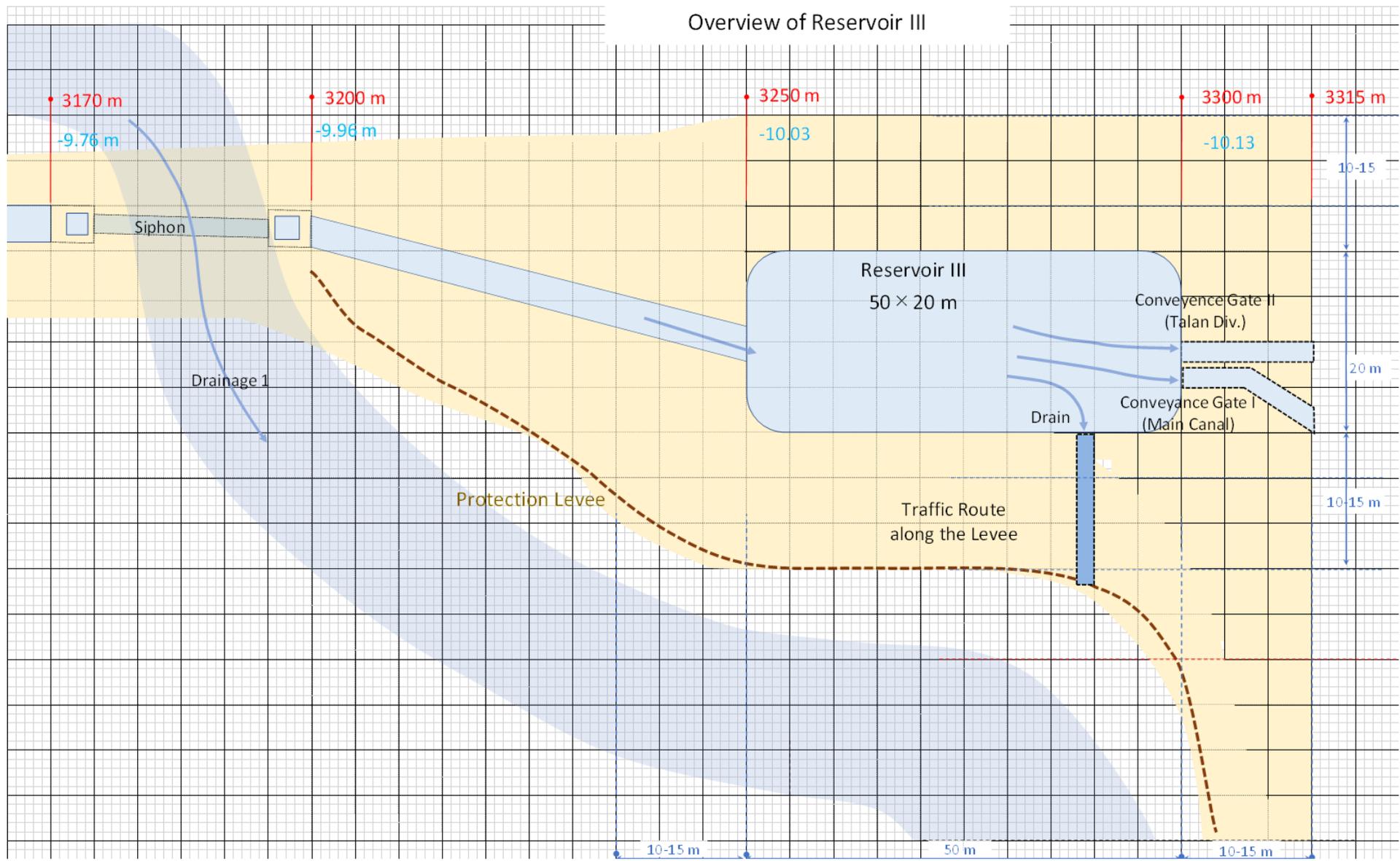


本日 10 月 11 日、カマ堰改修の来週着工が決定。カマ自治会が州政府に陳情し州政府がそれを公認。契約は署名式を初日として発効する。カマ自治会（シューラまたはジルガ）の長は、現在ハッジ・ヒダヤット氏で、篤実温厚な人物。ミラーブの長でもある。既に書類は整って、州知事の署名を得ている。カマ地域は最も結束力の強い半独立地域で、人口も 30 万人とナンガラハル州で最大。PMS は全力を傾けてカマに最善の範を遺す予定。会談のためカチャラの堰を訪れたヒダヤット氏。カマ郡は分水をめぐって上カマと下カマの歴史的対立があり、PMS を仲介者として紛争に終止符を打つことも自治会で決定された。普通、自治会の決定は誰も覆せない。また、自治会の庇護がここでは最も確実な安全確保である。2017 年 10 月 3 日



調節池Ⅲの最終案。サイフォン→50mの主幹水路→調節池（送水・排水門）を経て、タラン分水、主幹水路が置かれる。測量が終わり、来週からライニングが始められる。



サイフォン建設風景。ザミールグル担当で建設が早い。今月中には完了する。2017年10月11日



調節池Ⅲの基礎ができ、全体の構図が明らかになってきた。上流（調節池Ⅰ・Ⅱ）の排水管理で湿地帯が後退し、作業がやりやすくなっている。砂利採取が至近距離であることも幸いして、かなりのピッチで仕事が進んでいる。2017年10月11日



調節池Ⅱの排水門建設風景。今期は構造物建設が集中していて、水路横断橋梁4か所、サイフォン1、送水門2、排水門2が同時に進行している。まもなくタラン分水の基礎が始まり、来週からカマ着工が加われば、記録的なコンクリート仕事となる。冬期でもこのような状態は初めてだ。二チームが疲弊してはカマが進められないので、工夫が要る局面。2017年10月11日



タラーン分水路の位置と灌漑流域。同分水路は既に機能はしているが、水量が不安定である。約 1.4 km が我々の手で安定すると、耕作地を倍増できると見ている。次いで主幹水路が完成すれば、ベラ全域とカチャラ・コーティ村のクナール河側の荒蕪地が回復してくる。今のペースからすると、年度内に全域灌漑を実現し得る。

